

北海道浮魚ニュース

平成11(1999)年度18号 (通巻 NO.64)

1999年9月17日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

平成11年度オホーツク海サンマ漁況予報

9月14日に北海道区水産研究所を中心に釧路、網走、稚内水産試験場が共同で平成11年度のオホーツク海サンマ漁況予報を作成し、発表しましたので、お知らせします。

【漁況予測】

来遊資源量は昨年よりも多いであろう。

魚体組成は、中・小型魚主体となるが、漁期当初は大型魚が混じるであろう。

漁場形成は表面水温が高温傾向であるため、昨年よりも遅れるであろう。

この予報は以下の情報を総合して、作成しました。

・今年の見況について

択捉島沖南東40マイル付近における表面水温は、7月中は5～8℃台、8月以降は10℃前後で経過し、現在に至っています。また8月上旬の択捉島沖における10℃の等温線は昨年同様距岸40マイル付近に位置しており、三陸沖から道東太平洋にかけて顕著であった表面水温の高温傾向が、南部千島列島の沿岸でも認められました。

・今年の見況状況について

例年オホーツク海で漁獲の対象となる魚群は中・小型魚で、この群は南部千島太平洋側水域へ接岸したものの一部がオホーツク海へ移動・回遊するものと推定されています。

太平洋での漁獲物組成からみると、南部千島沖に北上した中・小型魚(ジャミを含む)の来遊量は昨年よりも多いと推測されました。

オホーツク海の漁況と密接な関係にある南部千島沖の表面水温は昨年と同様に高め傾向で推移していることから、サンマの移入条件としては好適と考えられました。

・オホーツク海の魚群分布調査（浮魚ニュース平成11年度17号参照）

9月上旬に稚内水試調査船北洋丸が実施した、オホーツク海サンマ来遊調査の結果、知床～佐呂間沖合にかけての表面水温は16～19℃台で、昨年同期に比べ1～2℃高い。夜間、停船・点灯しての目視調査では、ほとんどの目視調査地点でサンマが確認されましたが、高密度の魚群は全く認められませんでした。流し網、釣り、たも網によって漁獲されたサンマの体長は23cm、30cmに組成の峰を持ち、昨年よりも大型でした。

オホーツク海のサンマ漁獲量（網走・稚内・釧路水試調べ）

年	漁獲量	1隻1晩当たり漁獲量	年	漁獲量	1隻1晩当たり漁獲量
1989	183t	4.1t	1994	227t	7.2t
1990	2,400t	6.0t	1995	203t	2.5t
1991	0t	-	1996	10,294t	23.5t
1992	873t	9.3t	1997	4,260t	11.8t
1993	92t	1.5t	1998	9,617t	11.6t

1隻1晩当たり漁獲量は、棒受網漁業における数値。

なお、9月下旬～10月上旬にかけて、オホーツク海において再度、稚内水試調査船北洋丸による調査を実施する予定です。

（文責：釧路水試資源管理部）

直通電話 0154-23-6222